feel TEIKYO ft

あなたにつながる帝京大学　撮影・浅田政志

東洋医学の可能性を学んで未来の患者を救いたい。

「高麗人参の苦さって独特ですよね。どんな効能があるのか知ってますか？」「その苦味成分はサポニンと言われ、血行促進効果があります」「正解！」。学生同士のそんなやりとりが聞こえてきました。壁一面に並ぶ見慣れない名前の生薬の数々。ここでは帝京大学板橋キャンパスで活動する東洋医学研究会のメンバーが、勉強会を行っています。

みなさんは東洋医学にどんなイメージを持っていますか？　普段私たちが病院で受けている治療は、体の悪い部分、病巣をメスや薬剤を使って取り除こうとする西洋医学。それに対し、漢方や鍼灸、指圧などで体の内側に働きかけ、自然治癒力を引き出すことで健康維持や病気の改善をめざすのが東洋医学。この東洋医学研究会では、学生が中心となって東洋医学の勉強会や実習を行っています。

「東洋医学で使われる漢方には、西洋医学では治療しにくい病や、治療法が見つかっていない病にも適応できる可能性があると言われています」。そう話す医学部４年の江村 康さんは、一年前は部員不足で存続の危機にあった東洋医学研究会を、１８０人も所属する団体に押し上げた敏腕部長です。部員が増えた今、学年学部を越えて縦や横の繋がりが生まれる貴重な場になりました。

「僕たちは、〝二十年後、もっと輝くために〟という活動目標を掲げています。チーム医療が求められる現場では、医師、薬剤師、看護師など、さまざまな職種の人たちとの相互理解が必要不可欠。この研究会で他学部の学生と交流することが、将来きっと役立つと信じています」とも話してくれました。

古代中国から２０００年以上の歴史を持つ漢方の世界では、同じ病気でも患者の体質に合わせて処方を変えるといいます。最新の医療現場では漢方を取り巻く環境も変わってきたと話すのは、薬学部で学生たちに漢方について教える、薬学部講師の山岡法子先生。「少し前までは漢方薬は一部の人にしか認められない風潮があったのですが、今では柔軟な考え方の医療人も増えて、浸透してきていると思います。普通の薬だと作用が強すぎて合わないという患者さんなど、天然成分の漢方薬を求めて来られるケースは多いですね」。

漢方をはじめ、まだまだ秘められた可能性のある東洋医学。現代医療と併用することで患者に最善の選択肢を提示できる医療をめざしたい。そんな思いを持った若い医療人が集って、日々切磋琢磨している現場に立ち会うことができました。

帝京大学 TEIKYO
本部広報課　TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
http://www.teikyo-u.ac.jp

帝京大学のガイドブック 2014 をお届けします
「自分流」に学べる10学部29学科1短大。さぁ、興味の扉を開いてみよう！
請求先 → ✉ post@med.teikyo-u.ac.jp（本部広報課）
入試情報サイト → www.teikyo-u.ac.jp/applicants/